

今日のトピック 米国債券市場の動向（2017年6月） 長期金利はゆるやかな上昇へ、社債への需要は根強い

ポイント1 国債利回りは小幅な上昇 欧州での緩和縮小観測が影響

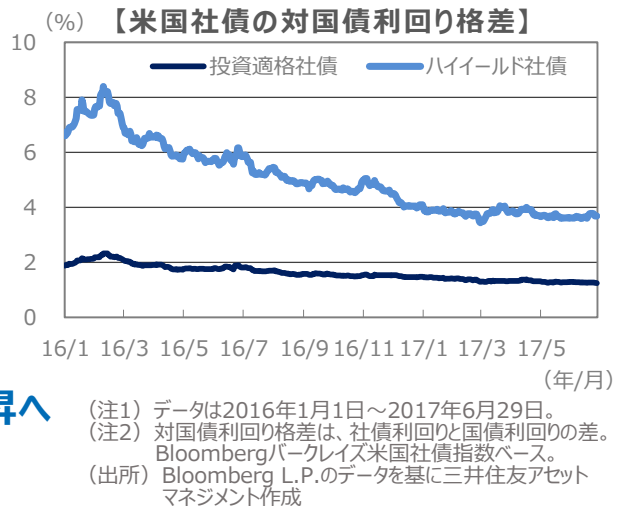
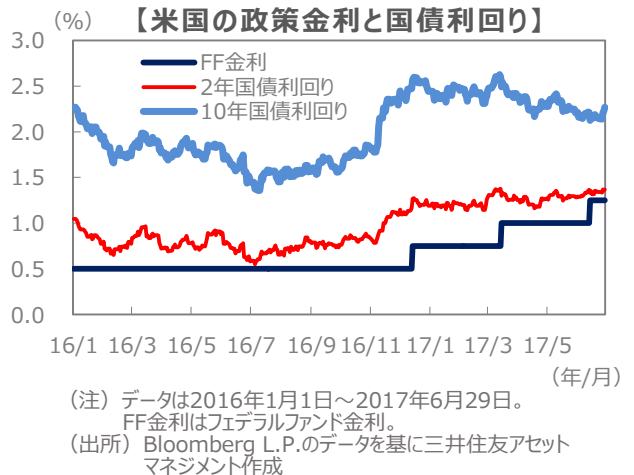
- 6月の米国10年国債利回りは、下旬まで概ね低下基調を辿りました。中旬には利上げが実施されましたが、消費者物価や小売売上高など市場予想を下回る経済指標の発表や、原油価格の下落を受け、今後の利上げのペースは緩慢なものに止まるとの見方が強まったためです。
- しかし、月末にかけて、欧州中央銀行（ECB）総裁が金融緩和策の縮小に前向きな姿勢を示した影響で、米国の債券利回りも上昇しました。

ポイント2 投資適格債は堅調に推移 ハイールド債は軟調

- 一方、社債スプレッド（国債と社債の利回り格差）は、投資適格債が小幅な縮小となったのに対し、ハイールド債は拡大しました。
- 堅調な景気・企業収益の拡大、物価上昇率の低位安定等から、投資適格債は引き続き堅調に推移しました。他方、ハイールド債は、原油価格下落の影響によるエネルギーセクターの不調が全体の足を引っ張りました。

今後の展開 国債利回りはゆるやかな上昇へ

- 米国景気は底堅く、今後も利上げは継続される見通しです。さらに米連邦準備制度理事会（FRB）は年内にもバランスシート（B/S）の縮小を開始する意向を示しています。ただし、物価の上昇率が低い水準で推移すると予想されるため、利上げやB/Sの縮小はゆっくりとした速度で進められる見込みです。長期金利の上昇はゆるやかなものとなりそうです。



- 社債については、長期金利が低い水準で推移する限り、相対的に高いクーポン（利息）の魅力は続きます。従って、社債への資金流入は、今後も継続すると予想されます。

ここも
チェック! 2017年6月27日 米国経済と株式市場の見通し
2017年6月15日 米国の金融政策（2017年6月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。